

月影



第 48 号

平成二十五年十一月一五日発行
浄土宗西山禅林寺派

常林院

月影の
いたらぬ里は
なけれども
ながむる人の
心にぞすむ



月の光は、
静かにすべてを照らす。

その光に気づき、
心にとどめる人は、

その光の浄きよらかさを、
心の中に宿す。

阿弥陀さまの
大きな慈悲が
心に宿るように。

法然上人 『百四十五箇条問答』

問 花香をほとけにまいらせ候事。

答 あか月は供養法にかならずまゐらせ候。

たゞははななかにさし、ちらしても供養すべし。香はかならずたくべし、便あしくはなくとも。

問 花や香を仏にあげますことは。

答 明け方早く起き、供養法にもとづき必ずお参り下さい。花は花瓶に挿してもよいし、散らしてもよいですから飾って供養しなさい。香は必ずたくようにしなさい。都合悪くできないときは、仕方ありません。

供養の仕方について、ある人が

法然上人に尋ねています。

その質問に対して、法然上人

が丁寧にお答えになられています。

す。

「香」とは、お焼香またはお線

香のことです。「都合が悪い時は

仕方ありません。」というお言

葉から、法然上人のこだわ

りのない大らかなお人柄が

うかがえます。

日々、お仏壇をお守りし

ていると、素朴な疑問が浮か

ぶことがあります。

花瓶やロウソクの位置は？

お供え物はいつ何を・・・？

ふとしたことを疑問に思

うことは、今も昔も同じみた

いです。



常林院だより

秋彼岸会法要を厳修

去る九月二十三日に、秋の彼岸法要を厳修致しました。

十三時から彼岸法要を勤め、檀信徒各家のご先祖様の水塔婆供養をしました。

そして十四時からは、春にテレビ放送された「古寺名刹こころの百景永観堂」のビデオをプロジェクトで皆さんと一緒に視聴しました。

永観堂の歴史や、本尊みかえり阿弥陀如来がどうしてふり返っておられるのか等。永観堂について、とても分かりやすくまとめられていた内容でした。

当日ご参詣いただいた檀信徒の皆様、ご多用の中お越しいただきありがとうございました。



あれこれ

仏教用語

サンスクリット語のカパーラに由来する言葉です。もとは、皿、器、瓶など、焼き物のことを意味しました。

また、頭蓋骨の意味もあり、カーパーリカ派という苦行者の一派もありました。

瓦 (かわら)



瓦は、飛鳥時代に中国から百済を経て、仏教伝来とともに日本に伝えられ、寺院の屋根に用いられました。

寺院建築用だった瓦は、やがて官庁や民間の住居にも普及していきました。

雑記抄

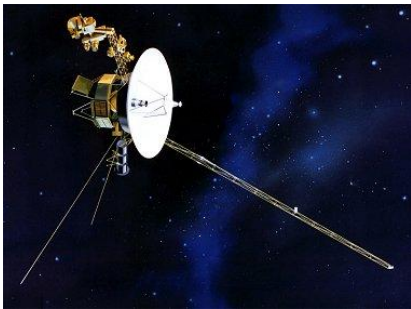
心のアンテナ

「水金地火木土天
海冥」。子ども頃、

呪文のように繰り返して覚
えた太陽系の星。先日、三
十六年前にアメリカが打ち
上げた惑星探査機「ボイジ
ャー一号」が太陽系圏の外
へ出たことをニュースが伝
えていました▼時速約六万
キロという速さで、三十六
年もの時間をかけて、太陽
系の外に出たといえます。
今後、太陽系を出ても、ボ
イジャーとの交信は、約七
年後にボイジャーの電池が
切れるまで続けることがで
きるそうです▼さて、現在
もボイジャーは、はるか遠

い宇宙の彼方を旅していま
すが、遠い彼方といえは、
阿弥陀さまやご先祖様がお
られる極楽浄土がある場所
も遠い彼方です。「西に十万
億仏国土を過ぎた所」と経
典に記されているように、
想像ができません。遠い
所にあります▼しかし、は
るか遠くにある極楽浄土の
はずなのに、お仏壇の前に
座り、手を合わして、今は
亡き大切な人のことを思う
時、その人を身近に感じる
ことがあります。それは、
たとえ十万億仏国土も離れ
ていても、心のアンテナが
亡き人の魂を受信している
からなのかもしれません▼
私が亡き人を思っている以

上に、亡き人は私のことを
思っているのです。その思
いを受信し、その思いに触
れた時、その人を身近に感
じることができるとはな
いでしょいか。私たちはこ
の世に生きながら、常に亡
き人と関わり合って生きて
いるのです。



ボイジャー 1 号